

opack めーる

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University



～九州大学学術研究都市づくりに向けて～ 福岡市が九大伊都キャンパス直近に「产学連携交流センター（仮称）」を整備 平成20年供用開始予定

福岡市では、九州大学の移転先である西部地域のまちづくりについて、「九州大学学術研究都市構想」を踏まえ、自然に恵まれた地域の特性を生かしながら、世界的な学術研究教育拠点を目指す九州大学と、連携がとれたまちづくりが計画的・段階的に進められています。

とりわけ大学直近の元岡・桑原地区については、学研構想において学研都市の「顔」「シンボル」と位置付けられている「タウン・オン・キャンパス」の一角を占めていることから、新たな学術研究都市づくりの先導的施設として产学連携交流センター（仮称）の整備に着手するなど、企業・研究機関等の立地促進や居住機能の集積誘導が図られる予定です。

产学連携交流センター（仮称）は、九州大学の研究

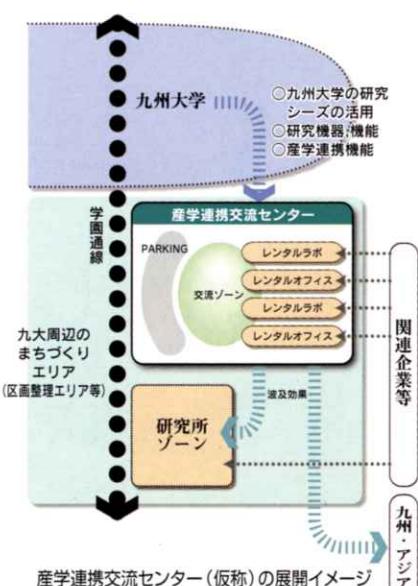
機能を活かして、国内外の研究者や企業との交流を促進することにより、新しい産業・企業の創出や地場企業の活性化を図るとともに、企業や研究機関の進出を促すなど、新しい学術研究都市づくりに資するための施設です。

企業と大学の共同研究・共同開発の場、研究の成果を実用化・事業化する場として利用していただくレンタルラボ、レンタルオフィスや、産学官が交流する場が提供される予定で、現在、平成20年の供用開始に向けたハード整備と併せ、产学連携を支援するソフト機能についての検討も進められています。

多くの先生方や企業・研究機関の方々に入居していただき、世界最先端の研究開発拠点として発展していくことが期待されます。

当機構では、昨年度、この施設が、より多くの企業に活用していただけるように調査を実施する等の支援を行いました。

今年度も引き続き、产学連携交流センター（仮称）を積極的に支援してまいります。



<主な機能>

- 産学官交流の場
- 共同研究・開発
- 研究成果の実用化・事業化

<施設概要(イメージ)>

敷地面積：4,000m²程度

延床面積：2,500m²程度

主要設備：レンタルラボ、レンタルオフィス、セミナー室等

<整備スケジュール>

17年度	产学連携交流センター（仮称）基本構想策定
18年度	設計、造成、機能検討
19年度	施設建設
20年	供用開始予定

前原市で～大学隣接集落地区における新しい学民連携の確立と門前町の形成～のまちづくりを展開中

平成17年度都市再生プロジェクト事業で都市形成調査を実施

前原市では、九州大学伊都キャンパスに隣接した「前原北部地域」の「泊カツラギ地区」、「大塚溜池南地区」を「大学隣接集落地区における新しい学民連携の確立と門前町の形成」と題し、都市再生プロジェクト事業（都市形成調査）が平成17年度に実施されました。

本調査では、地域が大学キャンパスの開校を実感し、大学の特徴である若い力や知識などの活用に関する意識を向上させ、大学の地域連携促進、魅力的で実現性の高い連携交流施策を生み出すことと門前町としての将来像の検討を目的としたものです。

活動内容としては、①九州大学、福岡県、当機構など、ステークホルダーが参加し、学民連携の施策、土地利用の方向性などを検討するワーキングの開催 ②前原北部まちづくり推進協議会を中心とした大学隣接地区の住民や九州大学の学生の参加により、双方向の連携・交流策を検討するワークショップの開催 ③地域と大学との連携・交流の促進と市民のまちづくりへの参加を目的に、地域連携に積極的に取り組んでいるパネリストによるパネルディスカッション、九州大学混

声合唱団によるミニコンサート、九州大学大学院人間環境学府学生による理想の学生住宅設計の発表会を合わせたシンポジウムが行われました。

今年度、泊カツラギ地区計画決定

当該地区は、「ほたる」の中でも伊都キャンパスに隣接している特長を活かし、学生や研究者の生活機能が充実し、実験的なコミュニティ創造活動ができるような土地利用を図り、地域と大学が一体感を保てるようなまちづくりが行われる予定です。

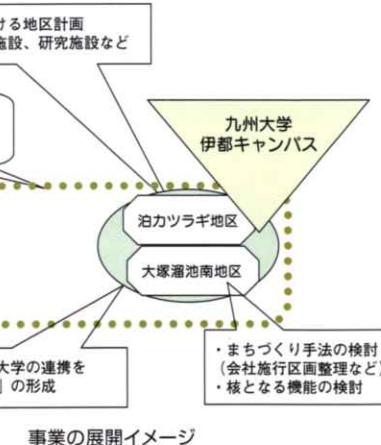
ゆとりある区画に学生用住宅、生活利便施設、研究施設、レクリエーション施設など大学門前町としての機能集積を図り、地域と大学との交流を促進し、活気あふれるまちづくりを行うとともに、ゆとりある周辺環境に調和したまちづくりが展開される予定です。



活動報告

「福岡ビジネス協議会5月度月例会（企業見学会）」を開催

福岡ビジネス協議会（FBK）月例会



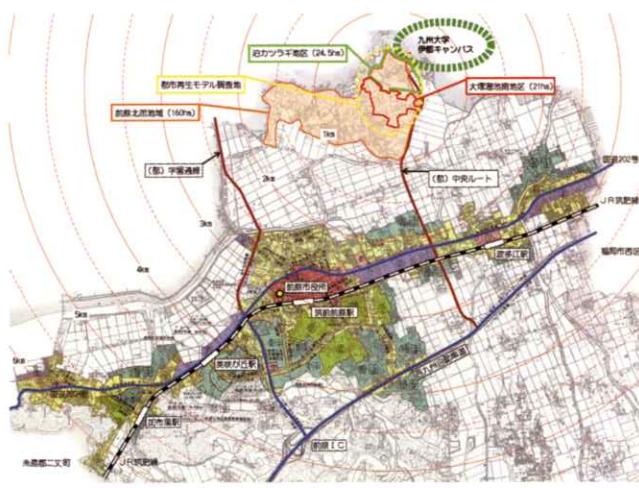
事業の展開イメージ



九大伊都キャンパス内での説明

が5月18日(木)に開催されました。本会は、会員企業(H18.5.31現在247社)のビジネス拡大に向けた取り組みなど、会員相互間のビジネスの接点の検討や営業情報の交換、販売協力・支援、提携、共同技術開発等のビジネスを広げることを目的として行われています。

5月度は、年に一度の企業見学会を兼ねて125名(当機構からの3名を含む)が、バス3台に分かれ、伊都土地区画整理事業・ほたる開発用地(前原IC地区、前原北部地区、松国・武・松隈工業団地)、JA糸島、九大伊都キャンパス等を現地見学しました。その後、月例



位置図



泊カツラギ地区計画区域図

会が伊都キャンパス食堂にて行われ、参加者155名が各テーブルに分かれ、当機構、九大、2市2町の職員も交えて、情報交換を行いました。

「福岡ナノテクNOW2006」に出演

5月25日(木)から27日(土)までの3日間、北九州市小倉北区・西日本総合展示場新館において「西日本総合機械展」、「ふくおか産業技術振興展」と合同で「福岡ナノテクNOW2006」が開催されました。当機構も九州大学学術研究都市構想・活動内容等のパネルを展示紹介しました。

また、当機構(企業立地サポートグループ)で、出展企業59社のブースを分担して、ナノテク製品・技術及び研究・開発の情報を収集するとともに、各企業の担当者に学研都市構想、活動内容、九大との連携・シーズ等のプレゼンテーションを行いました。

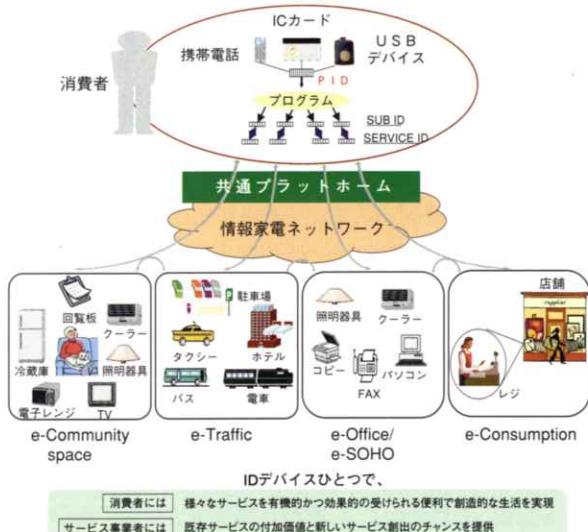
平成18年度情報家電活用基盤整備事業「デジタルコミュニティ実証実験事業」に

5月26日、九州大学発のID管理技術を利用した実証実験の経済産業省平成18年度情報家電活用基盤整備

事業への採択が決定されました。本事業では、九州大学が推進する新しい情報技術を活用し、产学官連携のもと、九大の伊都キャンパス及び周辺2市2町の地域に敷設されるネットワークを活用して情報経済プラットフォームを構築します。

プラットフォームには、フェリカ、BタイプICカード、携帯電話等のメディアに依存しない汎用的で個人情報保護に対応した柔軟な権限管理が可能な大学発ID管理技術「MIID」(Media Independent ID)を採用します。

これを家電やOA機器のネットワーク化が進む近未来を模した環境において、快適な生活を支援するネットワークサービスの有機的な結合による高付加価値のサービスの可能性、ビジネスや情報プラットフォームとしての課題等について提案・検証していきます。



平成18年度

第1回評議員会・理事会開催

当機構では、平成18年度第1回評議員会を6月2日(金)に、同理事会を6月8日(木)に福岡市内のホテルで開催いたしました。評議員会及び理事会とともに、「平成17年度事業報告及び収支決算書」を議題とし、評議員及び理事の皆様から、17年度事業に対する疑問や、今後の活動に対する意見を頂戴しました。

議案は原案どおり承認されましたが、役員の皆様のご意見を活かして、今後の活動をより一層充実させていきたいと思います。

大学を中心とする学術研究都市づくり～ケンブリッジ大学～

今回は、ケンブリッジ大学を中心とした研究都市づくりを概観したいと思います。1284年設立のケンブリッジ大学は、現在、35のカレッジ(学寮)と、学部、大学院、研究施設等を備える教育研究施設からなり、学生数約14,000人、教員約7,000人を有する大学です。

研究内容は科学技術全般で行われ、リベラルな校風のため、研究からの技術(IT,Bio,Medical,Chemistry,Electronics等)の移転が盛んに行われてきました。

この受け皿として、知識集約型企業の集積を目的に1970年にケンブリッジ・サイエンスパークが設立されました。これは、1969年に出されたネビル・モット教授による報告の中で、産学連携の重要性が指摘されたことをきっかけに、トリニティ・カレッジ(1546年設立)を中心に、自生的にハイテク企業が集積したことに端を発しています。(61.5ha、約66企業、5,000人:2002年現在)。

このサイエンスパークの特徴は、中小のベンチャーが

多く進出し、研究開発指向の多核クラスターを形成していることです。

また、1987年には、80年代半ばの研究成果に基づくベンチャーの増加を受けて、インキュベーション機能を専門とするセント・ジョーンズ・イノベーション・センターを立地、企業の創業支援等を進めるベンチャー育成パークを形成しました。1995年以降、ケンブリッジ市と周辺地域では、複数のサイエンス・ビジネスパークが設置され、約960社、31,000人の就業者を数える企業集積が進んでいます。



サイエンスパーク内研究所

自治体からの報告

Report from municipality

福岡市

伊都土地区画整理事業の概要

伊都地区は福岡市の中心、天神から西方約13km、また、九州大学の新キャンパスから5kmの位置にあります。

この地区は、福岡市新・基本計画において地域拠点として位置づけられており、福岡市西部の新たな拠点並びに交通結節点として、また良好な住宅地として、九州大学の玄関口にふさわしい計画的な市街地整備を、土地区画整理事業により推進するものです。

当事業におきましては、都市計画道路や公園の整備、またJR筑肥線の高架化及び新駅の設置を行い、新駅周辺については商業・業務・行政サービス機能の導入を図ります。

○ 施行箇所:西区大字徳永の一部、大字女原の一部、今宿町の一部ほか

○ 事業期間:平成9年度～
平成22年度

○ 総事業費:342億円



イオン福岡伊都ショッピングセンターがオープン(H18.4.28)

新西警察署が開署(H18.4.3)

事業の実施状況

伊都土地区画整理事業は、平成9年に着手し、JR筑肥線の高架化や道路等の整備、宅地の造成などを行ってきました。また、地区の顔となる諸施設の誘致を精力的に進めて、昨年9月にJR九大学研都市駅が開業し、今年4月3日には「新西警察署」が開署し、さらに4月28日には福岡市西部最大級の大型商業施設となる「イオン福岡



伊都ショッピングセンター」がグランドオープンしました。

今後のまちづくり

JR九大学研都市駅の南側に、西区西部の地域コミュニティ活動の拠点となる地域交流センターの設置が決まっております。

このように、伊都地区が西部地域の新たな拠点として、今後の発展が期待される中、まちづくりを進める上では、古墳などの地域の特性を生かしながら、周辺環境との調和を図った街並みの形成を推進していきたいと考えています。

シリーズ 糸島の自然と歴史・文化

第5回

国宝となった大鏡と 平原歴史公園



国宝に昇格した
内行花文鏡

伊都キャンパスから南に約6km、かつての伊都国の王都があります。魏志倭人伝に“世々王あり…”と記されている通り、この辺りには弥生時代の王墓が三ヶ所発見（全国でも僅か四例のみ）されています。その根拠となるのが埋葬された人物の威信財、特に当時は銅鏡がその証として尊重されており、女王卑弥呼も魏の皇帝から汝の好物として鏡百枚を賜っています。

さて、1965年に郷土史家の原田大六氏を中心に発掘調査された平原遺跡は、弥生末期の女王の墓と推定されるようになりました。その副葬品の40枚の鏡は圧巻で、鏡数では古墳時代を含めても日本一、しかもこの内の5枚の超大型（同型）の内行花文鏡は東アジア最大（鏡径46.5cm）で、マンホールの蓋ほどもあります。喜ばしいことに本年6月、これら全ての鏡を始め多くの装身具も一括して国宝に昇格しました。昔の伊都国域に居住する者にとって九大伊都キャンパスの誕生

<http://www.city.maebaru.fukuoka.jp/>
 (ご案内と写真提供:糸島ふるさとガイド)

と共に大きな誇りです。なお、これら出土品は伊都国歴史博物館に展示されていますが、このうち超大型鏡1枚を含めた3枚の鏡は九州国立博物館に貸し出されています。

一方、平原王墓は今春、弥生時代当時の方形周溝墓の姿に推定復元され、一帯は平原歴史公園として拡大整備されました。その一角には江戸時代中期の茅葺の庄屋住宅（九州では最古クラス）も移築復元され、広い土間に面した板張りの広間や

格子窓、高い天井屋根などに往時の生活スタイルを偲ばせるものがあります。遠くに伊都キャンパスの建物群を望みながらの園内散策や近くの三つの古墳巡りなど、ゆったりしたオフタイムを楽しむことは如何でしょうか。



公園として
整備された
平原遺跡